

大障教ニュース

大阪府立障害児
学校教職員組合
大阪市天王寺区
東高津町7-11
府教育会館704号
(TEL)6765-8904
(FAX)6765-8905

課別交渉 (施設財務課・支援教育課・保健体育課)

「過大・過密」解消には学校建設しかない

老朽化した校舎等の早期改修と空調整備、 教職員の増員による負担軽減を訴え



高槻支援学校
分会中村さん

高槻支援学校分会は、小学部低学年棟における老朽化したトイレの問題や手洗い場の排水の問題など、不衛生なので改善の必要があるという産業医の意見をしながら施設改修を訴えました。また、高学年棟各教室の照度データを示し、照度の改善を求めました。

老朽化した校舎やトイレ改修等による負担軽減

1月29日、大障教は施設財務課・支援教育課・保健体育課との課別交渉を実施しました。交渉には11分会から16人が参加し、学校の適正規模・適正配置等による教職員の負担軽減、障害児学校の実態に見合った教職員の増員等による負担軽減、老朽化している危険な校舎やトイレ等の施設改修等の必要性について、労働環境改善のための空調設置の必要性について、現場の実態を具体的に示してその改善を求めました。交渉での主なやりとりを紹介します。



光陽支援学校
分会黒岡さん

教職員の腰痛などの要因になっていることなどを示し、大規模な施設改修を求めました。

施設財務課は、「平成28年度からの3年間で行った劣化度調査を踏まえ、府立学校施設の長寿命化整備方針を3月に成案化し、今後この方針に基づき、老朽化対策に取り組む」とし、「緊急度の高い対策については、学校と十分協議

空調整備による労働環境・教育環境の改善



だいせん聴覚高等支援
学校分会 横山さん

だいせん聴覚高等支援学校分会は、7月から9月にかけての体育科職員室内温度のデータを示して、空調整備による労働環境の改善を求めました。

摂津支援学校分会は、もともと府立高校の剣道場や柔道場であった多目的室について、夏は暑く、冬は寒い環境であるにもかかわらず、エアコンがないため、劣悪な労働環境・学習環境に置かれている実態を訴えました。

学校の「過大・過密」解消等による教職員の負担軽減

摂津支援学校分会は、特別教室の転用や圧縮学級などによって、子どもたちに負担を強いている実態を示し、その改善を訴えました。枚方支援学校分会は、「根本的に『過大・過密』を解消するためには、新校建設しか道はない」と厳しく指摘しました。

高槻支援学校分会は、「この間の猛暑の中で、空調設備のない調理場は、調理員の健康はもちろん、食の安全性も危ぶまれる」と指摘し、早急に改善するよう求めました。

施設財務課は、「府立学校の特別教室など全ての教室、職員室などについて、空調設備の必要性は十分認識している」と回答しましたが、古い空調設備の更新時期とも重なり、全ての教室や職員室などへの空調整備を行う予算確保は難しいと説明しました。大障教は、熱中症など、教職員や子どもたちの健康を守るためにも予算確保するよう重ねて要望しました。

保健体育課は、高槻支援学校の調理場の空調設置について、「これまでと比べ小規模なものを設置したところ、調理場の環境が改善したことから、同様の手法により、できるだけ早く設置をすすめていきたい」と説明しました。

のうえ、必要な対策を講じた」と説明しました。

支援教育課は、「知的障がい児童生徒数の増加に伴い、教職員数が増加することによる施設の狭小化は認識している」と述べ、「平成30年3月に策定した『府立支援学校における知的障がい児童生徒の教育環境の充実に向けた基本方針』に基づく取り組みを順次進めると説明しました。大障教は、「過大・過密」による学校の大規模化が教職員の負担増大につながっていることを指摘し、地域に根ざした学校が、適正規模で適正配置されるよう、あらためて求めました。

(裏面に続く)



オリンピックの開催控え、羽田空港発着便の増便のために旅客機が都心上空を低空飛行するルートが計画されています。「海から入って海に出る」という同空港の原則を破る常識外のルートです。騒音・落下物・墜落の懸念が指摘されるため、地元品川・渋谷両区議会では、「容認できない」との決議や、「見直し」を求める意見書が全会一致で可決されています。

着陸の際に旅客機が高度を下げる「降下角度」が、世界標準の3度を超えて3.5度と急角度なものも異例です。国土交通省は、騒音軽減のための急角度だと説明していましたが、ところが、大手航空会社の内部資料には、降下角を3.5度にする理由として、横田空域内を飛行する米軍機などと間隔をあげるためとの趣旨の記載があります。事実であれば、騒音軽減とは何の関係もありません。

航空評論家の杉江弘さんは、この急な降下角度について「難しい操作となり、ハードランディング(地面にたたきつけられるような着陸)や、戻りも着陸の危険性が高まる」と警告しています。しかし、こうした専門家の指摘や地元の反対を押し切り、本格運用(3月29日)を前にした試験飛行が1月末から行われています。離陸機の飛行ルート直下にある川崎市では、騒がしい工場内並みの94デシベルが計測されました。「こう音と振動がすごい。こんなのが毎日続くのか」と、早くも住民から憤りの声があがっています。

オリンピック憲章には「人間の尊厳の保持に重きを置く平和な社会の推進を目指す」との目的が掲げられています。政府には、こうした理念も踏まえた対応が求められます。

障害児学校の実態に応じた教職員の増員による負担軽減 (表面よりの続き)

全国障害児学級・学校交流集会に参加して(感想その3)

撰津支援学校分会は、教員枠を削って看護師を配置しているため、教職員に多大な負担を強いっていることを訴え、看護師の定数外配置と大阪府独自の加配を行うなどして、教職員の負担軽減を求めました。



撰津支援学校分会野々村さん

枚方支援学校分会は、標準法における教員定数配置に基づいて教員配置数を算出した資料を示して、大規模校になるほど教員数の割合が低くなることを指摘し、子どもの実態に見合った府独自の教員加配を求めました。

支援教育課は、「支援学校の教職員の配置については、法令に基づき、学級数に応じて配置するほか、大規模校における課題を含め、児童生徒の障がい状況等、

各学校の状況を踏まえて行っている」と説明しました。また、看護師の定数外配置については、「医療的ケアを必要とする子どもが、安全で安心な学校生活を送るため、標準法定数で看護師を配置するよう引き続き国に要望していく」と説明し



枚方支援学校分会佐々木さん

2020年のパラリンピックで障害者スポーツに注目されると思いますが、そのスポーツだけではなく、日本の社会の中に、障害のある人たちがいるという当たり前の認識になるようなきっかけになってほしいと思います。残念ながらこの国ではまだまだ障害のある人たちの社会参加について知らなかったり、わからなかったりすることが多くあ

ります。また、自分たちが障害者になったときに、「このような社会でいいのだろうか?」という視点も十分持っていないように感じます。知る努力と知らせる努力、どちらも必要だと強く思いました。自分自身、当たり前を考へ直すいい機会となりました。(大阪北視覚支援学校分会 白木幸治)

当たり前を考え直すいい機会

協力してサポートすることの大切さ

2日目の「聴覚障害児の教育実践」分科会では、3本のレポートが報告され、それぞれ内容は違いましたが、子どもへの支援を考えると、えで、先生方の子どもへの寄り添いの姿が共通してい

ました。子どもたちをしっかりと見つめ、子どもをサポートするのは自分だけではない。他の人々と協力してサポートすることの大切さを感じました。(生野聴覚支援学校分会 岡田直美)

子どもの実態から出発した教育課程の工夫

教育課程の工夫



3日間、全国の仲間と多くの情報交換、そして学習することができました。特に、新しい学習指導要領がスタートした中で、「資質・能力」に始まる新たな統制や押しつけが広がっていることが分かりました。教育基本法が改正されて初めての学習指導要領で、政権や財界のねらいが色濃く反映された中味であることも教えてもらえました。大阪でも、シラバスの統一様式の押しつけがありますが、指

大障教女性部委員会ミニ学習会

～漫画「生理ちゃん」を読んで～
女性のからだや働き方について一緒に考えよう

1月18日(土)に定例女性部委員会(第4回)が開催され、19分会からの参加がありました。ミニ学習会は、漫画「生理ちゃん」の1章(仕事で忙殺される女性のもとに生理痛の原因を擬人化したキャラクター「生理ちゃん」がやって来るお話)を、画像に合わせて役員が台詞をつける形で読み合わせをしました。女性のもとに「生理ちゃん」がやって来る描写、下腹部に「パンチ!」をお見舞い、「注射器で血を抜き取る」などが、女性の「生理」をととてもリアルに表現しており、参加者の笑いと共感を呼んでいました。

この本には、他にも生理用品の歴史や声に出しにくい生理の悩みがユーモラスに描かれています。女性部で購入した本ですので、是非ご一読ください。男性にもお勧めです。

参加者から生理時のからだの変化の報告もありました。扁桃腺が腫れる、風邪と同じ症状が出る、肌荒れ、腹痛、腰痛など本当にいろいろな症状があります。ちょっと変わった変化では、学生時代の話で生理の時にはバスケットボールのシュートがよく入った、集中力がアップするという話もありました。人手不足で生理休暇が取りにくい、管理職への連絡で嫌な思いをした、トイレに行きたくても行けない、水泳指導をしなくてはいけないなど、生理であることを言いにくいという意見もたくさんありました。これらは周りの人が理解することで解決できることもあると思います。まずは同じ職場の女性から理解をひろげていきましょう。

次回の女性部委員会は3月7日(土)13:30～たかつガーデン3階ローズで開催します。桂容子先生を講師にお招きし、学習会「続・性の多様性について」をおこないます。たくさんのご参加をお待ちしております。

注:漫画「生理ちゃん」

作:小山健さん ウェブメディアに掲載され、閲覧数は2千万回を突破。昨年KADOKAWAが書籍化。映画化もされた。第23回手塚治虫文化賞短編賞に選ばれた。



中道勝久